

フラッシュ

JA青森



店舗スタッフによるトマトの収穫体験（7/27）

JA青森トマト部会東つがる支部は、モスバーガー県内各店のスタッフを対象に、トマトの収穫体験を行い、関係者9人が参加した。

店舗で使用している野菜がどのように栽培され、収穫しているのかを実際に体験し、知ってもらうことが目的。同支部のトマトは、モスバーガーとの取引があり、関東の店舗で使われている。

JAつがるにしきた



いっぱい食べてね 社協に農産物提供（8/25）
JAつがるにしきた女性部は、五所川原市社会福祉協議会が行う「子ども宅食おすそわけ便」へ米や季節の野菜などを提供した。提供は今年で2年目。
「子ども宅食おすそわけ便」は、定期的に無料で食品や日用品を配布する取り組み。今回は米やメロンなどの食品、ティッシュや未使用品のタオルなどの日用雑貨が計120種類集まった。

JAつがる弘前



2023年産リンゴ収穫始まる 順調な仕上がり（8/25）

JAつがる弘前は、各リンゴセンターなど17ヶ所で、2023年産早生種リンゴ山選果基準説明会を開いた。

河東りんごセンターには約40人の生産者が参加、岩木地区営農係の職員から、早生種の「未希ライフ」、「きおう」、「サンつがる」、「葉とらずつがる」の入庫期間や山選果基準の説明を受けた。

広がれ農福連携 マルシェにぎわう（8/26）

JAごしょつがるは、地域住民を対象とした農福連携イベント「ノウフクマルシェごしょつがる」を開いた。

当日はJAが主催した「やさしい絵画コンクール」の授賞式からプログラムがスタート。そろいの法被を着たJA青年部員が「残暑の餅つき」を披露し、女性部員が用意したお汁粉などに仕上げて来場者へ振る舞った。

JAごしょつがる



夏野菜を堪能 食育活動が繋ぐ地域の輪（8/25）

弘前市の相馬こども園ぞう組（年長）の教室で、JA相馬村女性部と青年部が招待され夏野菜を使った給食を味わった。

同こども園では毎年、敷地内の畑で野菜をつくる食育活動を行っており、青年部が耕起と草刈り、女性部が苗植えと育成指導で年長児をサポートしている。

JA相馬村



ＪＡ津軽みらい



「川中島白桃」収穫開始（８／２５）
 ＪＡ津軽みらい管内では、桃の主力品種「川中島白桃」の収穫が始まった。同品種は大玉で日持ちに優れ、果汁が多く濃厚な甘み特徴。
 収穫作業は９月中旬まで続き、関東・関西・中部・九州の市場など全国へ３万７５００箱（１箱５キ）の出荷を目指す。
 ＪＡ直売所の「産直センターひらか」などにも出荷する。

ＪＡゆうき青森



ＷＣＳ用稲の収穫最盛期（８／１０）

ＪＡゆうき青森管内の東北町で、発酵粗飼料（ＷＣＳ）用稲の収穫が始まった。

同ＪＡの事業としてＷＣＳ利用者協議会が、稲作生産者と酪農畜産生産者のマッチングを図り、ＷＣＳの供給を行っている。今年度は東北町の稲作生産者７人が１８㌧作付けし、ＪＡ管内の酪農畜産生産者１４人へ供給した。

管内産ニンニク×ジャガ 念願のポテチ新発売（８／２５）

ＪＡ十和田おいらせとカルビーは、ＪＡ直売所「かだあ〜れ」で新作「青森県産じゃがいも使用ポテトチップス十和田にんにく味」を発表し、商品に携わった関係者や地元住民などが駆け付けた。

管内産のニンニクとジャガイモを融合したＪＡ念願の商品。８月２８日から東北６県のスーパーやドラッグストアなどで数量限定販売した。



ＪＡ十和田おいらせ

ＪＡ八戸



桃の選果作業 若手職員が体験（８／１９）
 ＪＡ八戸は、ＪＡ三戸営農センター桃・レクラーク選果場で新人職員の職場体験を行い、入組１年目と３年目の職員２人が参加した。
 職員らはセンサーによって感知し、選別された桃「あかつき」を向きや等級などを間違えないように注意して箱詰め作業をした。

ＪＡおいらせ



米国の姉妹都市とゴボウ収穫で交流（８／２４）
 三沢市と姉妹都市を結ぶ米国ウエナツチ市と東ウエナツチ市のウエナツチバレー姉妹都市友好親善使節団は、４年ぶりに三沢市を訪れた。１０／８０代の１５人で構成される使節団は、ＪＡおいらせを訪れ、ゴボウ畑で収穫体験をした。同ＪＡは、試食の提供などで生産量日本一のゴボウの魅力を紹介した。

県養鶏協会へ470万円贈呈 県農協農政対策委員会

県農協農政対策委員会は8月23日、県農協会館で2022年度に発生した鳥インフルエンザなどの被害に対するJAグループ支援募金を県養鶏協会へ470万円を贈呈した。

募金活動は、JA全中が全国のJAグループ役員、青年組織、女性組織メンバーらを対象に実施し、被害規模に応じて被害を受けた道県に支援募金を配分した。

県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は「被害に遭われた生産者の皆さんの復興に役立ててほしい」と話した。

目録を受け取った県養鶏協会の佐々木健会長は「採卵鶏についての支援募金は初めて。役職員をはじめ多くの方々からいただき大変感謝している。有効に使わせていただきたい」と話した。



▲雪田委員長（右）から目録を受け取る佐々木会長

最優秀賞は奈良さん JA営農指導実践青森県大会

JA青森中央会は8月28日、青森市で「令和5年度JA営農指導実践青森県大会」を開いた。営農指導の品質向上と営農指導員ネットワークの構築をはかることを目的に、県内JAから約20人が参加した。

「施設野菜による新規就農者定着の取組み」と題して発表したJAつがる弘前の奈良浩照係長が最優秀賞に輝いた。

奈良係長は営農指導に携わるなかで、若い生産

者が継続して農業を続けられる方策が求められていること、またゼロから始める農業経営の難しさを実感したことから、ビニールハウス賃貸借事業を提案・実践するなど、新規就農者定着に向けた支援の事例を発表した。奈良係長は宮城県で11月29日に開かれるJA営農指導実践北海道・東北ブロック大会に県代表として進む。



▲表彰を受ける奈良係長

りんご栽培技術現地研修会

JA青森中央会は8月22日、弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場で、2023年度第3回「りんご栽培技術現地研修会」を開き、新規就農者や若手営農指導員など15人が参加した。

同研修会は弘前大学による受託研究の一環で、JAが推薦する新規就農者の栽培技術習得と、業務経験が浅いJA営農指導員に生産現場における



▲SSを見学する参加者

専門的知識を習得させることが目的で、今年で3年目となる。

今回は、青森県産業技術センターりんご研究所より研究員を招き、リンゴの病害に対する防除方法に関する座学と、スピードスプレーヤー（SS）など農業機械の取り扱いと保守などについて実地研修を行った。

同研修会は、年間6回の開催を予定し、次回は11月下旬、収穫やJA選果施設において研修を行う。

きらきらサークル研修会

県JA女性組織協議会は8月7日、組織の強化・拡大を目的に、きらきらサークル研修会を開き、部員や子ども約100人が参加した。

同協議会の松橋久美子会長は「今回の研修ではアロマキャンドルサシェを制作する。子供たちも大勢参加しているということで良い作品を作って有意義な時間を過ごしてほしい」とあいさつした。講師はプリザーブドフラワー&キャンドル教室「sora」の沓澤香純さんが務め、作成手順や蝋を容器に入れるタイミングなどを説明した。

参加者は色や形の異なるプリザーブドフラワーと、蝋に入れるアロマオイルを自由に選び、思いのままにアロマキャンドルサシェ作りを楽しんでいた。

参加した子どもたちは「初めて作ったけど楽しかった」と笑顔で話していた。



▲アロマキャンドル作りを楽しむ参加者

青森県JA直売所キャンペーン 開催！

JA青森中央会は、県内のJA直売所を訪れたお客様に、抽選で県産牛肉などをプレゼントする「青森県JA直売所キャンペーン」を9月2日から10月31日まで開催している。対象となる県内18

のJA直売所で1000円以上購入した人に専用応募はがきを進呈する。

キャンペーンの詳細はJA青森中央会のホームページにて。

(<https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>)



行事（9／10～10／10）

9月

- 11～12日 認証上級準備研修会（県農協会館）
- 11日 県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議（県農協会館）
- 13日 県参協定例会（県農協会館）
- 13日 県農協情報対策委員会・幹事会（県農協会館）
- 13日 認知症サポーター養成講座（県農協会館）
- 13日 農業者年金加入推進特別研修会（アップルパレス青森）
- 14日 若手営農指導員による営農指導事業 meeting（第2回）（県農協会館）
- 15日 JA事務リスク管理研修会（県農協会館）
- 19～20日 農業簿記実務講座（県農協会館）
- 28～29日 次世代リーダー育成研修会ユニット3（（株）青森原燃テクノロジーセンター）
- 29日 第42回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査会（県農協会館）

10月

- 3～5日 内部監査士検定試験準備研修会（県農協会館）
- 6日 定例理事会（県農協会館）

「ライフイベントセールスリーダー養成講座（第2部）」を開催

JAバンク青森では、8月23～24日に県農協会館で「ライフイベントセールスリーダー養成講座（第2部）」を開催した。

本講座は、ライフプランサポートを実践するキーマンの養成を目的に毎年開催しているもので、6月20日の開講から10月19日までのおよそ4か月間で、全3回（のべ6日間）の集合研修に加え、期間中、JA内での現場実践および所属店舗内における提案型セールスの浸透を図る取組みを通じて、ライフイベントセールスリーダーとしてのノウハウや知識の習得を目指す。

今年度は、県内JA本支店の窓口担当者11名が受講。6月20～21日に開催された第1回目の集合研修で、ライフイベントセールスリーダーとしての基本的な役割や行動のあり方などを確認したほか、セールスの基本である「伝わるコミュニケーション」のとり方やカウンターやロビーなどの来客スペースの活用方法など、実践活動開始に向けたスキルやノウハウを学び、4か月間におよぶ自JAでの実践活動をスタートさせた。

第2回目となる今回の集合研修は、ライフイベントセールスリーダーとしてのこれまでの活動状況をチェックするとともに、今後、活動を浸透させていくうえで必要なノウハウや幅広いアプローチスキルの習得を目的に開催。今回掲げた研修成果2つと研修内容は次のとおり。

① ライフイベントセールスリーダーの役割を理解し業務改善の提案ができる。

各受講者がこれまでの現場での活動を振り返り、リーダーとしての意識や仕事への取り組み方、後輩・同僚・他部署との関わり方についてセルフチェックを行い、今後の活動の方向性や自身の行動の改善点などを確認した。

また、グループディスカッションでは、各受講生が前回の研修課題について実践結果を報告するとともに、今後の業務を効果的かつ円滑に進めるうえで必要な「PDCAサイクルの回し方」や「業務の優先順位の考え方」などを参考に改善点や改善方法を話し合った。

② 各種商品をお客様のニーズを引き出し提案できるようになる。

JAバンクの利用者基盤拡大の柱の一つである「インターネットバンキング」と「JAカード」のニーズがあるお客様のタイプや職業等を分析するとともに、お客様が自身のニーズに気づくようにする「質問トーク」の

仕方などを学んだ。

また、資産形成・運用商品である「農業者年金」「iDeCo（イデコ）」を提案する際に必要な商品性や特徴、節税メリットなどを理解するとともに、「投資信託」「NISA（ニーサ）」との違いを整理し、ロールプレイングを通じてアプローチスキル習得に取り組んだ。

なお、集合研修最終回となる第3部は、10月18～19日に開催し、研修テーマは「相続、資産形成、FP知識の活用」を予定している。

また、任意参加の第4部は、来年1月10～11日に「FP検定受験対策講座」として開催する予定。



▲資産形成・運用商品の説明に聞き入る受講生

行事（9／10～10／10）

農林中央金庫

9月

- 10日 F P技能検定試験（各会場）
- 12日 資産形成・運用提案研修（トスアップ話法）（県農協会館）
- 13日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
- 14～15日 信用事業中堅職員研修（受信力・発信力編）（県農協会館）
- 20～21日 相続実務研修（ウェブ会議）
- 26～27日 相続実務研修（ウェブ会議）

10月

- 4～5日 信用事業マネジメントレベルアップ研修（県農協会館）
- 7日 第53回信用事業業務検定試験（県農協会館）
- 10日 青森県JA信用担当部課長会議（ウェブ会議）
- 10日 2023年度第2回証券外務員資格試験・内部管理責任者資格試験（県農協会館）

毒物劇物取扱者試験講習会

JA全農あおもりは7月18日、青森市の県農協会館で毒物劇物取扱者試験講習会を開き、県内JAから農薬担当者約60人が参加。9月の試験合格を目指し、毒物・劇物に関する法規や性質、貯蔵や取扱方法について学んだ。

全農あおもり営農購買部肥料農薬総合課の藤田匡臣課長は「県内におけるここ10年の平均合格率は28%と低い状況。試験に向けてポイントを押さえ、合格に向けて努めて欲しい。学んだ知識を現場で活用して欲しい」と呼びかけた。

講習会では、テキストを基に講師の解説を交えながら内容の確認と対策について理解を深めた。



▲毒物劇物取扱について学ぶ参加者

L P ガス保安講習会

JA全農あおもりは7月21日、青森市の県農協会館でL P ガス保安講習会を開き、JA・子会社のガス担当者ら31名が参加した。

この講習会は、法令で定められているガス保安業務を適正かつ円滑に遂行することを目的に開催している。

講習会では、L P ガスの保安情勢および県の立入検査項目に沿った自主点検の解説と、業務を行ううえでの注意すべきポイントを説明した。また、県における立入検査の結果と留意事項を報告し、受講者に改めて保安確保に努めるように促した。

そのほか、講習会では県が実施する「L P ガス料金負担軽減生活者緊急支援事業費助成」の対応案についての説明も行われた。

全農あおもり営農購買部の三浦次長は、「L P

ガスの販売事業者に第一に求められるのはお客様の保安。より安心安全なL P ガスの供給に向けて保安業務に活かしてほしい」と話した。



▲講習を受ける参加者

第49回青森県花の共進会

JA全農あおもりは7月21日、青森市の県観光物産館アスパムで「第49回青森県花の共進会」の審査を実施した。

県内の花き生産者からトルコギキョウ、アルストロメリア、ディスバッドマムなど計140点の出品があり、最優秀賞（農林水産大臣賞）にJA八戸の荻沢功さんが出品したトルコギキョウ（ボヤージュライトピンク）が選ばれた。

共進会は県産花きを広く県民に紹介し消費拡大を図るとともに、優れた花きを展示・評価することで生産者の生産意欲高揚と栽培技術の向上を目的に行っている。

また、22日から23日の2日間は「あおもりフラワーフェスティバル2023」を開き、一般客に対し県産花きをPR。共進会に出品された花きの展示やフラワーアレンジメント教室、県産花きに関するクイズラリー、模擬セリ体験を実施した。

最優秀賞以外の上位入賞者は次の通り。

▽優秀賞＝㈱咲花園（アルストロメリア・JA津軽みらい）佐野純一（輪ギク・JA八戸）渋谷富志子（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）

▽金賞＝寺山多喜男（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）小笠原厚子（カラー・JA青森）館野隆行（ディスバッドマム・JA八戸）山口雅人（ひまわり・JA津軽みらい）藤森光明（輪ギク・JAごしよつがる）高松岩男（かすみ草・JAつ

がるにしきた) 千沢正知 (トルコギキョウ・J A 八戸)



▲県産花きを審査する関係者

第2回U15青森ジュニアユースサッカーフェスティバル

7月25日から28日の4日間、青森市の青森市スポーツ広場で「第2回U15青森ジュニアユースサッカーフェスティバル」が開かれた。

J A全農あおもりは25日と26日の2日間、中学生の選手ら約500人に対しりんごジュースを提供。この日は好天に恵まれ、暑い中競技に励む選手らの姿が伺えた。ジュースディスペンサーの蛇口から冷たいジュースを注ぐ選手らで賑わい、早々に品切れとなった。

選手からは「運動した後の冷たいジュースは嬉しい」「青森のりんごジュースはやっぱりおいしい」などの声があった。

提供した商品はJ Aアオレンのりんごジュース「あおもりねぶたレギュラータイプ」。

全農あおもりでは、8月17日から20日まで開かれた「第2回U18青森ユースサッカーフェスティバル」においても、同商品を提供した。



▲りんごジュースを楽しむ選手ら

「牛乳ごっくんキャンペーン第1弾」抽選会

J A全農あおもりと青森県牛乳普及協会は8月8日、青森市の県農協会館で、6月16日から7月末日まで展開した2023年度第1回目となる「牛乳ごっくんキャンペーン第1弾」のプレゼント抽選会を開いた。合計9358件の応募の中から、当選者200人を決定した。

当選者には賞品として、ヨーグルトが作れる発酵フードメーカーを5名様、あおもり和牛焼肉用カルビを50名様など、合計200名様にプレゼントする。

県牛乳普及協会の担当者は「第2回は9月1日から開催予定。県産牛乳をたくさん飲んで生産者を応援して欲しい」と話す。



▲抽選する担当者ら

令和5年度りんご販売懇談会

J A全農あおもりは8月22日、弘前市のアートホテル弘前シティで「令和5年度りんご販売懇談会」を開き、事業計画や取扱対策について報告した。令和5年産は系統集荷765万箱（1箱20キロ、前年産比28万箱増）を目指す。また、販売計画は



▲開会のあいさつをする雪田会長

1250万箱（1箱10キロ、前年産比15万箱増）に設定した。全国の取引会社や県関係者、JAの代表者ら約230人が出席し、計画達成に向けて意識統一を図った。

重点取組事項として生産面では、高品質安定生産へ栽培管理の徹底と高密度わい化栽培など省力栽培の導入による生産基盤の維持を図るとした。販売面では、品種構成の変化と労働力不足に対応した集荷・選果体制を構築。業務加工需要への対応強化と輸出の維持拡大に努め、共販の拡大と生産農家所得の向上に取り組むとした。

全農あおもり運営委員会の雪田徹会長は「本県のりんごを取り巻く環境は、円安を背景に輸出は好調に推移しているが、生産基盤の脆弱（ぜいじゃく）化や物価高騰による消費の停滞、2024年問題

など早急な対応が必要になっている」と話した。また「消費地と産地が一体となって施策を進め、有利販売と組合員所得の向上に取り組んでいく」（雪田会長）と意気込んだ。

同日、系統共販拡大に尽力した取引会社9社と担当者5人を表彰した。

行事（9／10～10／10）

9月

12～13日 JA—SS所長・スタッフ講習会（県農協会館）

10月

6日 運営委員会（県農協会館）

「Fresh Vegetable」

7月14日放送

JA十和田おいらせ「にんじん」



放送内容はこちら



7月28日放送

JA青森「トマト」



放送内容はこちら



8月4日放送

JAごしょつがる「輪ギク」



放送内容はこちら



8月18日放送

JAつがる弘前「ピーマン」



放送内容はこちら



青森県警察本部と連携した自転車交通安全教室の開催

JA共済連青森は青森県警察本部と連携して、7月20日に蓬田村立蓬田中学校で「生徒向け自転車交通安全教室」を開いた。

この教室では、スタントマンが危険な自転車走行に伴う交通事故の実演により、事故の衝撃や恐ろしさを実感することで、ルールやマナー違反が交通事故を招く危険性があることを考え、自転車交通ルールの理解と実践を呼びかけている。

参加した生徒たちは、スタントマンによる交通事故場面の再現で、自転車運転中の事故やトラックの内輪差による巻き込み事故を目の当たりにして、事故の恐ろしさを実感していた。

今年度は4回実施しており、4月14日に藤崎町立藤崎中学校、18日に田子町立田子中学校、21日に五所川原市立五所川原第一中学校で行われた。



▲交通事故を再現するスタントマン

JA共済きずなの青い森プロジェクトの開催

JA共済連青森は、7月25日に平内町で「JA共済きずなの青い森プロジェクト」を開催した。平内町管内の小学生を対象に総勢28人が参加した。

森林プログラムでは森林組合あおもりのご協力のもと、弁慶内地区にある「JA共済きずなの青い森」で除間伐や伐採の作業見学、薪割り等の自然体験が行われた。食育プログラムでは食品ロス



▲樹種観察する参加者



▲集合写真

(フードロス) や食育に因んだクイズで、現代の「食」に関する問題や課題について学んだ。その後、平内町消防署のご協力を得て、消火活動疑似体験や濃煙体験を行い、消火活動の大変さを学んだ後、木工クラフトプログラムでは木材を利用した小物入れづくりに挑戦した。

参加者は「薪割りでスパッと一発で薪を割れて楽しかった」「自然や樹木観察が面白かった」と楽しみながら参加している様子が伺えた。

共済税務研修会の開催

JA共済連青森は、8月3日～4日に青森市の農協会館で「共済税務研修会」の個人編と法人編を開催した。

新任の共済担当課長や担当者、LAトレーナー、LAを対象とし、共済税務に関する基礎知識の習得を目的としている。

「個人編」では税金の概要や所得税、個人の住民税などについて学び、「法人編」では法人税の概要や法人契約と税務上の取扱いについて学んだ。



▲熱心に説明を聞く参加者

行事 (9/10～10/10)

9月

- 13日 JA共済ヘルスアップ講座 (きざん三沢)
- 16日 JA共済交通安全フェスティバル (道の駅なみおかアップルヒル)
- 17日 JA共済交通安全フェスティバル (ファーマーズマーケット・かだあ〜れ)
- 22日 共済担当課長会議 (県農協会館)
- 23日 書道・交通安全ポスターコンクール審査会 (県農協会館)

10月

- 3日 JA共済きずなの青い森プロジェクト (平内町)
- 4日 共済事業担当常勤理事会議 (県農協会館)
- 5日 生命共済JA審査員有資格者研修会【1回目】(オンライン)
- 6日 運営委員会 (県農協会館)

「人・農地プラン」から「地域計画」に

これまで、地域での話し合いにより、人・農地プランを作成・実行してきていただきましたが、今後、高齢化や人口減少の進行により、農業者が減少し、耕作放棄地が増えるなど地域の農地が適切に利用されなくなる懸念があります。このような地域の課題を解決するため、市町村では、若者や女性を含め、幅広い方の意見を聴くなどし、地域の関係者が一体となって地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）の作成を進めています。地域計画の策定に向け、10年後の地域における農用地の利用のあり方について、地域の皆様の意見を反映させるべく、話し合いが行われています。

人・農地プラン
(地域農業の将来の在り方)



地域計画
(地域農業の将来の在り方+目標地図)

地域の「協議の場」にご参加ください

市町村では、皆様の貴重な考えをお聴きするため、各地域に「協議の場」を設置します。地域の農用地を次世代に引き継ぐため、「協議の場」に御参加ください。



*詳しい開催情報は、あなたが現に営農している市町村又は今後営農したいと考えている市町村にお尋ねください。

農業者のみなさまへ

農作業中は

安全確認を

忘れずに !!



経営の窓口

新規学校卒業者・若者の採用・募集に関して

1. はじめに

J Aでは、採用職員の多くを、10代、20代が占めている。そのため今回は、厚生労働省のホームページに記載がある、若者の募集採用に関する指針を一部抜粋して紹介する。

2. 若者の募集採用に関する指針とそれに伴う確認事項

若者の募集採用に関する指針とは、若者雇用促進法に基づく指針の中から、若者を募集・採用等する事業主などが講ずべき措置をまとめた指針である。

それぞれの段階毎の留意点は以下のとおりである。

(1) 募集にあたっての注意点

- ① 適切に職業選択を行い、安定的に働くことができるように、労働条件などの明示などに関する事項を遵守すること。
- ② 広告等により提供する職員の募集に関する情報等は、誤解を生じさせるような表示としないこと。また、当該情報を正確かつ、最新の内容に保つこと。
- ③ 明示する従事すべき業務の内容などは、虚偽または誇大な内容としないこと。

(2) 内定に関する注意点

- ① 採用内定を行う際は、確実な採用の見通しに基づいて、採否の結果を明確に伝える。
- ② 採用内定、または採用内々定と引換えに他の事業主に対する就職活動を取りやめるよう強制することなどの職業選択の自由を妨げる行為などは、青少年に対する公平・公正な就職機会の提供観点から行わない。
- ③ 採用内定者について労働契約が成立したと認められる場合には、採用内定者に対して、自由な意思決定を妨げるような内定辞退の勧奨は、違法な権利侵害に当たるおそれがあることから行わない。また、客観的に合理的な理由がなく、社会通念上相当であると認められない採用内定の取消しは無効となる。

(3) 卒業者の取扱い

- ① 既卒者が卒業後少なくとも3年間は「新卒枠」に応募ができるようにすることや、できる限り上限年齢を設けないように努めること。
- ② 通年採用や、秋季採用の導入等の個々の事情に配慮した柔軟な対応を積極的に検討するよう努めること。

3. ユースエール認定企業

若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業（常時雇用する労働者が300人以下の事業主）を若者雇用促進法に基づき厚生労働大臣が「ユースエール認定企業」として認定している。

認定した企業の情報発信を後押しすることなどで、企業が求める人材の円滑な採用を支援し、求職中の若者とのマッチング向上を図る仕組みである。

全国でみると、数は少ないものの認定されているJ Aもあり、認定されると対外的に優良企業とアピールすることができるようになる。

Q「ユースエール認定企業」として認定を受けると、どんなメリットがありますか？

A ユースエール認定企業になると、以下の支援を受けることができるようになり、企業のイメージアップや優秀な人材の確保などが期待されます。

1	ハローワークなどで重点的PRを実施	「わかものハローワーク」や「新卒応援ハローワーク」などの支援拠点で認定企業を積極的にPRすることで、若者からの応募増が期待できます。また、厚生労働省が運営する、若者の採用・育成に積極的な企業などに関するポータルサイト「若者雇用促進総合サイト」などにも認定企業として企業情報を掲載しますので、貴社の魅力を広くアピールすることができます。
2	認定企業限定の就職面接会などへの参加が可能	各都道府県労働局・ハローワークが開催する就職面接会などについて積極的にご案内しますので、正社員就職を希望する若者などの求職者と接する機会が増え、より適した人材の採用を期待できます。
3	自社の商品、広告などに認定マークの使用が可能	認定企業は、ユースエール認定マーク（右）を、商品や広告などに付けることができます。認定マークを使用することにより、ユースエール認定を受けた優良企業であるということを対外的にアピールすることができます。 
4	日本政策金融公庫による融資制度	株式会社日本政策金融公庫（中小企業事業）において実施している「働き方改革推進支援資金（企業活力強化貸付）」を利用する際、基準利率から－0.60%での融資を受けることができます。 ※ 基準利率は、令和5年3月1日現在（期間5年以内）で中小企業事業1.20%です。 ※ 貸付期間、担保の有無などに応じて異なる利率が適用されます。 ※ 働き方改革推進支援資金（企業活力強化貸付）の詳細は、以下のURLをご覧ください。 https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/hatarakikata_m.html
5	公共調達における加点点評価	公共調達のうち、価格以外の要素を評価する調達（総合評価落札方式・企画競争方式）を行う場合は、契約内容に応じて、ユースエール認定企業を加点点評価するよう、国が定める「女性の活躍推進に向けた公共調達及び補助金の活用に関する取組指針」において示されています。 ※ 加点点評価の詳細は、公共調達を行う行政機関によって定められています。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11800000/000862825.pdf> より引用

4. さいごに

若者雇用促進法の主な内容の一つとして、職場情報の積極的な提供（平成28年3月1日施行）があり、これは新卒段階でのミスマッチによる早期離職を解消し、若者が充実した職業人生を歩んでいくため、労働条件を的確に伝えることが挙げられている。

採用した職員が、JAの戦力となる前に離職してしまうことは、JAにとっても職員本人にとっても損失になる。職員が早期離職することなく職場に定着し、その能力を発揮できるようにするためには、雇用管理のあり方を振り返り、必要な改善を進めることが重要である。

（中央会 経営対策部）



組織農政通信

全国のJAでのSDGs取り組み事例

令和2年にJA全中は、SDGsの達成に向けて、事業・活動に取り組むことを宣言する「JAグループSDGs取組宣言」を公表した。県内のJAにおいても総合10JAのうち大半のJAで「SDGs取組み方針」を策定している。

県内JAのSDGsの取組み事例については、絆の「すすめ！SDGs」や、本会から四半期ごとに発行している「JAにおける自己改革およびSDGsの取組み事例」で紹介しているが、今回は全国のJAでの取組み事例について紹介する。

1. SDGs取組み事例

(1) プラスチックを含まない液体肥料を活用



JA新みやぎ（宮城県）は、プラスチックごみによる海洋汚染を防ぐため、液体肥料を使った米づくりの実証実験を始めた。プラスチックの殻で覆われた従来の肥料は、水と土で分解されるが、中には分解されずにそのまま河川を流れて海に流出する可能性があったため、海洋汚染の一因になると指摘されていた。

同JAは、SDGsの「目標14 海の豊かさを守ろう」の達成に向け、環境に配慮した米の生産を推進している。

(2) 地場産野菜をカーディーラーで来店者に進呈



JA晴れの国岡山（岡山県）は、地元企業との連携による、地産地消と特産の消費拡大を後押しする取組みとして、自動車販売店と協力してディーラーの県内全23店舗で「連島れんこん」「山陽エンダイブ」など県の特産を来店者特典として進呈している。

特に注目したいのは、愛車点検などで訪れた来店客をターゲットに、1時間ほどの待ち時間を有効活用し、店頭の特産品を選びながら特色を学んでもらう取組みだ。1日100～200人の来店者と新たな接点ができ、若者や家族連れらと接する機会が増え、JAファン獲得の足掛かりになっている。

(3) JAが養鶏業者とビール業者を仲介し、問題を解決



JA東京中央千歳支店（東京都）は、飼料価格の高騰に苦しむ養鶏業者と、ビールを造る工程で排

出される麦芽の搾りかすの処理に困っているビール業者を引き合わせた。

養鶏業者は、飼料価格の高騰を受け、一時期と比べ3倍近いコスト高に悩まされていた。一方、クラフトビールを醸造するビール業者では、麦芽の搾りかすが毎週100キロ以上も発生する。農家へ堆肥用に提供したり、価値を高めるアップサイクル食品としてパン作りにも挑戦しているが、全量は再利用しきれないでいた。

同JAはそれぞれの悩みを聞き、“麦芽の搾りかすを、飼料として提供してはどうか”と打診、両業者は快諾した。

同JAは、今後、麦芽の搾りかすを与えた鶏の卵を使ったメニューの開発などを通じ、食と農を通じたアップサイクルを実践していく。

【出典】SDGsとJAグループ/SDGsの取り組み状況・事例一覧

URL：<https://org.ja-group.jp/challenge/sdgs/>

2. 気軽に参加できるSDGs「寄付型自動販売機」

寄付型自動販売機とは、自動販売機の売上げ1本ごとに、希望する団体へ寄付をすることができる自動販売機である。設置オーナーは振込みなどの手間は無く、また購入者は気軽にSDGsに参加することができる。さらに、自動販売機にオリジナルラッピングを施すこともできるので、啓発効果も期待できる。

SDGsの取り組みは一過性ではなく、持続・継続することが重要である。この寄付型自動販売機は、消費者が気軽に参加できるSDGsとして注目を集めている。

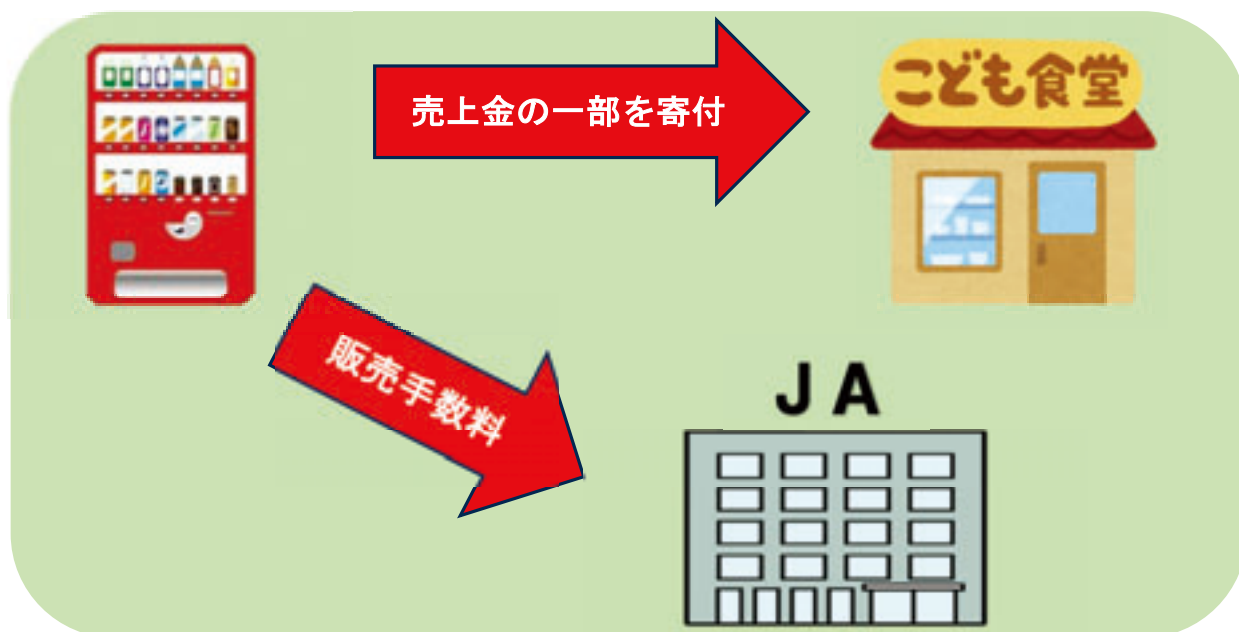
なお、設置には条件（契約年数、必要売上本数、設置不可エリアなど）があり、本県では青森県社会福祉協議会が飲料メーカーと協働で、寄付型自動販売機の設置を展開しているの、興味のあるJAは問い合わせていただきたい。

【問合せ先】社会福祉法人 青森県社会福祉協議会

青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ2階

TEL：017-723-1391

寄付型自動販売機フロー（寄付先：こども食堂の例）



（中央会 農業対策部）

実践 農業者支援

農作業安全確認運動の取組み

農作業の死亡事故は年間約300件（令和3年242人）発生している。農業従事者の減少に伴って発生件数も減少傾向にあるものの、農業従事者10万人あたりの死亡事故件数は10.5人（令和3年）で、危険だとされる建設業の6.0人、全産業平均の1.3人と比較するとその発生件数が実に高いということがわかる。特に死亡事故の84.7%が高齢者（65歳以上）で、その半数以上が80歳以上という実態に注視する必要がある。

今回は、JAグループ青森も参画している国の全国農作業安全確認運動に呼応して、農家組合員への周知等の取組みについて紹介する。

1. 死亡事故の要因

死亡事故の要因で最も多いのが「農業機械作業に係る事故」で全体の7割を占める。中でも乗用型トラクターに係る事故が58人（全体の24%）で最も多く、次いで歩行型トラクターに係る事故が22人（全体の9.1%）、運搬機に係る事故が次いで21人（全体の8.7%）と続く。また、農業機械作業以外では、「熱中症」が23人（全体の9.5%）と高くなっており、高齢化と単独作業という農作業の特性に応じた対策も重要となっている。



2. 農作業安全確認運動

国の全国農作業安全確認運動は、都道府県・市町村・関係団体が連携して取組んでおり、JAグループも秋・春に農作業安全月間を設定し関係機関と連携しながら、農作業安全の確保等に向けた取組みの実践をお願いしている。令和5年度についても昨年度同様に、農水省のポスターやステッカーを活用していただくとともに、今年度は新たにJA全中で作成した「JA広報誌向け農作業安全広告データ（啓発資材）」の提供も行うので、農家組合員への周知に活用していただきたい。

3. JA広報誌向け農作業安全広告データ（啓発資材）

- ①「熱中症」毎年約30人が農作業中の熱中症で死亡
- ②「何としても生き残る」農機に巻き込まれ右腕切断の大けが
- ③「あの時こうしていたら」トラクターが脱輪横転して左足骨折
- ④「もしもあれがなかったら」高所から転落両足骨折の重傷
- ⑤「もしもああしていたら」事故によるけがで1800万円の売上減
- ⑥「近くに人がいなかったら」機械に右腕を引き込まれる

※それぞれPDF・Wordの2種類

たら…
げていれば～

疲労を押ししのぎ長時間作業
を繰り返して疲労が蓄積し、
作業中にトラクターの脱輪横転
が発生。高所から転落し、両足
骨折の重傷を負った。事故に
関与する要因として、長時間
の作業による疲労が挙げられ
た。また、作業中に周囲の
状況を確認できていないこと
も原因の一つと見られる。



トラクターが脱輪
横転して左足骨折

（中央会 農業対策部）



4年ぶり！ 畜産共進会開催

J A ゆ う き 青 森 酪 農 畜 産 振 興 会 と 酪 農 畜 産 部 は 7 月 15 日 に、新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス の 影 響 で 中 止 し て い た 畜 産 共 進 会 を 4 年 ぶ り に 青 森 県 家 畜 市 場 で 開 催 し た。当 日 は あ い に く の 天 候 に よ り 場 内 で の 審 査 と な っ た。

共進会には、当 J A 管内の他、三沢市、田子町、横浜町の生産者より肉用牛の部32頭、乳用牛の部37頭の合計69頭が出品され各部門で審査を受けた後、それぞれの上位2頭からグランドチャンピオンを決定した。

審査員は、肉用牛の部では、公益社団法人全国和牛登録協会青森県支部中沢貴博事務局長と地方独立行政法人青森県産業技術センター畜産研究所繁殖技術肉牛部中村良一部長が努め、乳用牛の部は一般社団法人家畜改良事業団盛岡種雄牛センター林田光業務課長が努めた。



畜産共進会

あぐりハウス「すずな」でお盆売り出し



「すずな」お盆売り出し

J A ゆ う き 青 森 野 辺 地 支 店 構 内 に あ る 野 菜 直 売 所 あ ぐ り ハ ウ ス 「 す ず な 」 で お 盆 売 り 出 し を 8 月 11 日 か ら 13 日 に 行 っ た。お 盆 の 売 り 出 し は 毎 年 行 わ れ て お り、お 盆 に お 供 え す る 花 や 野 菜 な ど が 販 売 さ れ た。

店頭では、お供えする花を購入するお客様がオープン時間前の朝早くから並んでおり、販売開始2時間以内で売り切れとなった。

また店内では、とうもろこしや夕顔、きゅうりやなすなどのたくさんの夏野菜が並べられ、かごいっぱい商品をつめたお客様が多く見られた。

お客様は、「毎年お盆用の花はすずなから買っています。スーパーなどで買うより安いし、綺麗な花がいっぱいなのでとてもうれしいです。」「地元で収穫された新鮮な野菜を久しぶりに帰省した家族にふるまいたい」などと話し、たくさんのお客様が来店した。



農林中央金庫 青森支店

J A貸出推進班

やまね けいいち
山根 啓一 さん

輝き

●プロフィール

2021年4月から勤務 さいたま市出身 25歳

— 働くきっかけは？ —

営農指導・経済・共済・信用 etc…と、多方面にわたって農業者と強いかわりを持ち続けられる「農業協同組合」の仕組みに共感を覚え、入庫しました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

J Aの貸出伸長をサポートしています。具体的には、J Aの担当者と共に、農業法人や住宅販売業者を訪問するほか、J Aバンクの全国施策の県域展開などを担当しています。

— 働いた感想は？ —

覚えるべき業務上の知識の多さには、今なお驚き続けています…。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

相手の立場になって、何を求められているのかを考えながら仕事をするよう心掛けています。

— 特技・趣味は？ —

インドアではパソコンを自作したり修理したり、ゲームすることが趣味です。アウトドアでは、バイク(ホンダ400X)に乗ってラーメン屋や温泉地をめぐるしています。目下、大型二輪取得を目指し教習所に通っています。

— あなたが自慢できることは？ —

ニセ外国語を話せます(タモリさんほどではありませんが…)

— 将来の夢は？ —

系統職員として、農業者およびJ Aにとって役に立てる人材になりたいです！

プライベートでは、全国転勤を活かし、ゆったり日本一周してみたいです。また、運転免許証の枠を全部埋めてみたいです。

環境に優しく省エネ



苗の植え付け作業を行う女性部員ら

青森農協女性部は、J A青森営農経済本部前の花壇で「みどりのカーテン」作りを行い、女性部の役員9人とJ A職員5人が参加した。

「おもちゃかぼちゃ」をメインに、その他野菜3種類の苗と、コンパニオンプランツとしてマリーゴールドを植え付けした。

環境に優しい省エネを目的として始まったこの活動は、今年で13年目。持続可能な開発目標(SDGs)の目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と目標15「陸の豊かさを守ろう」の達成を目指す。

昨年度は、収穫した野菜を料理教室で使用し、アピオスの炊き込みご飯を作りおいしいと好評。

本年度は「おもちゃかぼちゃ」栽培に挑戦。小さな観賞用力ボチャは、色や形など種類が豊富でかわいらしい。収穫した力ボチャは秋祭りでの販売を予定している。





津軽の桃カレー



青森県土産販売(株)は、ＪＡ津軽みらいのブランド桃「津軽の桃」のピューレを使用した「津軽の桃カレー」を製造している。数年前、同社が県内で桃の産地化が進んでいることに着目し、同ＪＡに商品開発を打診した。

カレーは、桃をイメージしたピンク色にして見た目を強調。カレー本来の味わいを出しつつ、桃のピューレで甘味を出し、子どもにも食べやすいマイルドな味わいとなっている。

パッケージには「津軽の桃」のロゴマークを使用し、商品のカレーをイメージしたイラストが描かれている。また、青森県産を使用していることと、カレーの色がピンク色であることを大きく記している。

「津軽の桃カレー」は１缶（２００ｇ）、価格は６４８円。同ＪＡの直売所「産直センターひらか」などで販売している。

後編 編集集

編集集中の８月末は、まだまだ暑いですが！我が家のりんごを含め全国・県内の農作物が心配で、ほんと気が滅入ります。

今回の写真はダイヤル式の黒電話です。皆さんで使っている方いますか？

ご存じのとおり、今の電話はプッシュ式がほとんどで、黒電話は珍しいかと。黒電話の大きなメリットは停電中でも使えること！一般的な今のプッシュ式は電源がないと全く動きません。

我が家の黒電話はきちんと動きます。ちなみにダイヤル式で壁掛の白電話も１台あります！平成以降に生まれた方は見たことあるかな？使い方わかるかな？

それでは皆様、「SEE YOU ON OCTOBER!」(一)



ホームページアドレス

- ＪＡ青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・ＪＡ情報などをご覧ください。
- ＪＡバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のＪＡバンクへのリンク等をご覧ください。
- ＪＡ全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- ＪＡ共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
ＪＡ共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組を紹介しております。